

校長室だより

緑 鷹



令和 7 年 5 月 19 日 (月)

〔発行者〕 三笠 淳一

スローガン：○凡事徹底で生活の基礎固め～基本的生活習慣のレベルアップ

○全力燃焼～過程（プロセス）重視

【災害は、忘れたころに… 今は、忘れる前にやってくる】

14日（水）に実施した「引き渡し訓練」への協力ありがとうございました。昨年度の集合待機を継承しつつ、引き渡し方法を変更しました。「これが正解！」というものがないので、よりスムーズに引き渡しができるように試行錯誤を繰り返します。今回、大雨を想定しての訓練でしたが、ダムの緊急放流が行われれば、子どもを学校に留め置き、校舎の2階・3階への「垂直避難」をしなければなりません。垂直避難訓練は日を改めて行う予定にしています。また、本校は「洪水浸水想定区域又は土砂災害警戒区域に立地している要配慮者利用施設」となっており、有事の際には地域の要配慮者も避難してくることが考えられます。6月1日（日）には、町内の避難訓練が行われる予定になっており、サイレンと放送を合図に、地区ごとに決められた場所に避難することになると思います。「**自分の命は自分で守る**」行動が避難です。「**自分の命を守り**」ながら、周りにも気を配ることを訓練で意識して欲しいと思います。実際に災害等で避難することになった場合、避難の誘導や避難行動支援、避難所運営のサポートなど、中学生は間違いなく**頼られる存在**になります。この避難訓練にはぜひ参加させてください。



8年生 向井 孝くんの感想

迎えを待つ時間、みんなドキドキしているようで、落ち着かない雰囲気がありました。でもしばらくするとみんな落ち着いてきて、この訓練に対してまじめに行動することができました。実際に起きても落ち着いた行動をとりたいです。日頃から危機感を持って生活し、命を守る行動ができるようにしたいです。

9年生 河津 丈介くんの感想

大山町は、大雨や台風の時とても危険です。洪水や土石流などを警戒しても足りないような災害に備えるためにも今回のようないい訓練は良かったと思います。先の見えにくいこの時代、実際に災害が起きたときに素早く行動がとれるようにこういった訓練を大事にしたいと思いました。



7年生 教育合宿（自然教室）

5月15日・16日『九重青少年の家』で教育合宿を行いました。2か所であいさつについての評価をもらいました。1か所目はタデ原湿原の探索中にすれ違った登山客の方です。「気持ちの良い挨拶をする中学生だね」という仲間どうしの会話が漏れ聞こえてきました。2か所目は自然の家で、入れ替わりのタイミングで入所してきた東部中学校の校長から「大勢の生徒を前に物怖じしない大きな声のあいさつはいいね」と言われました。日常的にこういう評価のあいさつができるいるということなのでしょう。

さて、この2日間で生徒は多くのことを学び、成長しました。しおりと時計を見て自主的に行動したり、自分のことだけではなく周りに気を配れるようになったりした生徒が増えました。良かったところを伸ばし、課題を改善する意識を継続させれば、学校生活さらに成長できると期待しています。

河津 斗李くんの感想

この合宿の感想は2つあります。1つ目は見学などの行事です。僕は今まで発電の仕方などに興味がありませんでした。でも八丁原発電所の見学で仕組みや発電方法に興味を持ちました。2つ目は自然の家での出来事とレクリエーションです。自然の家で友達と過ごして、仲がさらに深まつたと思います。レクリエーションなども楽しくできました。オリエンテーションでは友達と協力してゴールを目指しました。

木村 武輝くんの感想

自然教室で思ったことが2つあります。1つ目は友達とより関わるということです。友だちと協力して活動を行うことで仲良く、より深く関わることができたと思います。2つ目はルールを守るということです。ルールを破って大声を出したり、走ったりして何度も注意を受けました。周りの迷惑にならないようにルールを守り、周りをきにかけることを心がけたいと思いました。周りと協力しながら楽しむこととその中でもルールを守るということを学びました。